

# EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

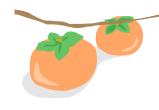
Nファミリー  
2007.9.1  
No.38

先月号で、「聖書が語る終末」について記しました。創造主が終末を預言しているという、「神があらかじめ知っているのならば、どうしてそれを止めようとししないのか。」と不満に思う人もいることでしょう。もし、人間が未来の破滅のことを知っているならば、それを止めるように当然警告していくと考えるからです。実は、神は聖書を通じて警告してきたし、これからも警告していかれます。それにもかかわらず、人間がそれを拒絶し、結局、身に破滅を招いてしまうということを時間を越えた神は、それをあたかも見ているかのように記すことができるのです。時間の枠から出ることができない人間にとって、未来も現在のように見ることができると神の性質を理解することは困難です。人間に対する神の思いは聖書全体から推し量るのが一番確かなのです。

「もし、わたしがわざわざいを予告したその民が悔い改めるなら、わたしは。下そうと思っていたわざわざいを思い直す。…さあ、おのおの悪の道から立ち返り、あなたがたの行いとわざを改めよ。」(エレミヤ十八章)

この「予告したわざわざい」とはイスラエルの不法に対する神のさばきのこととです。「さばきを行

## 創造主のジャッジ



「神」というほど人気がない性質はありません。でも、この地上のことを見てもわかるように警察裁判所がない世界というのは安心して住めません。また、そういう組織があっても、実際に捜査・逮捕・裁判・執行がなければ意味がありません。正しい神が裁きを行わないのであれば、それはもう神と呼ばれる資格はないでしょう。

このみことばはイスラエルという国家について語っていますが、次のみことばは個人に対する裁き(ジャッジ)に関することです。

「人間には一度死ぬことと、死後さばきを受けることが定まっている。」(ヘブル九章)

人間は、個人として神の前に立ち、ジャッジを受けるときがきます。

「人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。」(マタイ十二章)

人間が裁くときでも、犯行に至った動機などを考慮します。状況によっては情状酌量の余地があるか判断されます。精神疾患を患っている場合は複雑です。人間の裁きには疑問もたくさん生じます。しかし、神の裁きは完全です。環境、精神状態、動機などを完全に把握した上で裁かれます。例えば、すべてお見通しの「遠山の金さん」が最後に公平に裁くようなものでしょう。

(続く)

### 日曜学校のキャンパ

八月一日に初めてホームスクールの友達が私の家に来てくれました。Mちゃんのお母さんも一泊泊まってくれました。来てくれた日の夜には、花火をしました。そして八月三日から日曜学校のキャンプに行くことになりました。Mちゃんもいっしょです。

場所は府立青少年海洋センターでした。海が近くにありいっぱい遊べました。部屋の名前は「ピクトリア」「太平洋」「サンタマリア」など海に係る名前ばかりでもしるかったです。私の班の部屋は「ピクトリア」でした。

一日目は遊泳禁止だったので足だけつかりました。ですがすいかわりもすることができたので楽しかったです。聖書のメッセージをしてくれたのは宮崎先生でした。とつても分かりやすくおもしろいのでよかったです。夜にはキャンプファイヤーをしました。花火はいろいろ種類がありました。途中で色が変わっていく花火が一番おもしろかったです。しかし風が大変でした。夜、寝るのは遅かったです。

二日目はもう帰る用意をしなければなりません。帰りに帰る用意をしなければなりません。朝ごはんを食べ終わったら、カッターにみんなで乗りました。自分でこぐのてたいへん疲れましたが、みんなで協力し合いました。みんなで決めたかけ声「エリヤ！」をずっと言い続け最後までがんばることができました。

Mちゃんはキャンプ後も家に泊まってくれるので日曜学校にもいっしょに参加できました。Mちゃんも喜んでくれてうれしかったです。

ミヨシ石鹼の工場見学。石鹼と洗剤の違いがやっとわかりました。



こんなことしました！ 行事報告

- 八月
- 七月三十一〜八月四日 チア・サマーキャンプ(仙台)
- 七月三十一〜八月四日 R下関帰省
- 三〜四日 日曜学校キャンプ(海洋センター)
- 八〜十二日 バイブルキャンプ(海洋センター)
- 九日 JCホームチャーチスクール訪問
- 十〜十一日 H家宅お泊り
- 十六〜十七日 T家お泊まり
- 十七日 造幣博物館
- 二十日 大阪市中央卸売市場本場見学
- 二十五日 土曜学校「色で遊ぼう」
- 二十八日 ミヨシ石鹼(神戸)工場見学



日曜学校キャンプ。台風直撃の翌日に泳ぎました。一人埋まっています。

LIETとして参加したチアのキャンプ

M

「ピー・ピー・ピー。」午前五時三十分。何台もの目覚まし時計が教室中に鳴り響くなかで目が覚めました。ここは仙台明泉学園。今年もやってきましたチア・サマーキャンプ！今年にはコンベンションに引き続きLIET(リーダーズ・イン・トレーニング)として参加しました。キャンプの準備のために二日前に明泉学園にいったのですが、ハードスケジュールと聞いていたのに、初日は川へ行ったり、キャンプファイヤーをしたり...しかも仙台は大阪と比べて夜が(大阪の人にとっては)涼しいので、快適なものでした。ですが次の日からは朝早くからハードワーク。参加者が多いので、仮設シヤワーを作ったり完成した時の喜びといったら...学園の掃除をしたりしました。本番のキャンプが始まったらもうてんてこまいで、と



キャンプで集まった20名あまりのLIETたち。全国から集まりました。

ても楽しかったですが毎晩寝る時には、へとへとでした。

今回のキャンプで一番印象に残ったのはスタッフの人たちの忠実に「人に仕える姿」でした。LIETとして参加して、去年あれだけ楽しかったのはこんなスタッフの人たちの努力のおかげだったんだと痛切に実感しました。また驚いたことにスタッフの人たちは仕事について、少しも自慢したり、誇ったりすることがありませんでした。僕はスタッフの人たちほど働いているでもないですが、そこで少し高ぶってしまう自分が恥ずかしく頭が下がる思いであり、また仕えるということについていろいろと学ぶことができました。

キャンプ最後の時、参加者全員が学園の講堂に集まりました。そして司会者の「本当によく働いてくれたLIETのみんなに感謝をこめて拍手！」という声と共に大きな拍手が講堂に鳴り響きました。その時のやりきったなあという思いと喜びは帰ってきてからも忘れることができませんでした。

「クリスチャンとして神様に仕えて生きていくということは、大変なこと、困難がつきまとうだろう。でも最後にこのように神様がほめてくださるんだ。」と思います。

来年もぜひLIETとして参加したいと思うキャンプでした。

編集後記

今年の夏もかなりの分散型で過ごしました。それぞれにキャンプや出張や帰省などで大忙し。全員集合の時には、我先にと報告合戦。だれにどこまで言ったかわからなくなって混沌状態もしばしばでした。